

第1回 吹田市ごみ減量再資源化推進会議 議事要旨

1 日 時

平成30年7月6日（金）午後2時から午後3時45分まで

2 場 所

吹田市役所 中層棟 4階 第4委員会室

3 出席委員

市民団体7名 事業者6名 行政1名 計14名

4 概要

(1) 会長選出について

会長は三輪委員（大阪学院大学国際学部教授）、職務代理者は斉藤委員（イズミヤ株式会社）に決定。

(2) 推進会議の進捗確認を行う指標について

(3) 吹田市のごみの現状及び減量目標について

(4) 国、府及び先進都市の食品ロス削減に向けた取組みについて

資料3、4、5、6をもとに、事務局及び大阪府から説明。

市民団体、事業者より、食品ロス削減を進めるには、市民、事業者の相互理解を深めることが重要で、この会議で周知、啓発を計っていく。

(5) 構成団体の食品ロス削減対策及び課題について

事業者からの主な意見

- ・平成29年度より順次店内でフードドライブを実施。今夏には全店舗で実施。
- ・廃棄ロス、値下げロスを削減。売れ残りは堆肥化处理。小学校100校に食育講習を実施。各店舗に廃プラなどの分別データを集計し、店舗ごとに意識を持たせている。
- ・過剰生産の原因究明を日々行っている。食品ロス対策会議を月2回開催。食品ロスは飼料等に100%活用しているが排出量の減少に努めている。

市民団体からの主な意見

- ・平成29年度から食品ロス削減のプロジェクトを立ち上げ、活動している。飲食店に対して、食べ盛り推進店舗（仮称）への登録を依頼し、ポスターやステッカー、三角柱の掲示をお願いするつもりである。
- ・食品ロスを削減するには、冷蔵庫の点検日を設けて意識することが重要。

- ・食品ロスについて、知識不足なのでこの会議で勉強をしたい。消費者の立場では余計なものを買わない。
- ・食べきれぬ量を買物するよう心がけている。
- ・まとめ売り商品を買わず、割高になっても食べられる量を買う。
- ・週1回冷蔵庫の中身を使い切ることを意識している。
- ・団体として食品ロスアンケートを実施しており、今後どのような活動をしていくか検討中。
- ・賞味期限と消費期限の違いを理解してもらおう等、食品ロス削減に向けた市民啓発が必要。

行政からの意見

- ・小学校給食における食品ロス削減は、食べる側と調理する側の二つに分かれる。食べる側の児童へ食育を行い、食材がどう作られているかを理解して、作る過程の勉強も行い、感謝をもって食べ残しのないように啓発している。調理する側は、食品残渣をなるべく出さないよう、分別資源化に努めている。

(6) レジ袋持参率の現状及び無料配布中止の状況について

資料7、8をもとに、事務局から説明

主な意見について

- ・協定には参加していないが、6月25日から独自にレジ袋無料配布中止を北摂店舗で実施。
- ・特に目立った苦情はない。滋賀県や石川県、富山県は県が主導してレジ袋の無料配布中止を実施した。大阪府には、吹田市が作ったレジ袋無料配布中止の実績を府域全体に広めてほしい。
- ・6月1日のレジ袋無料配布中止にあわせて茨木市でマイバッグを無料で配布していたら、すでに持っているという理由で断られることがあった。周知がきちんとできたのではないかと。
- ・レジ袋削減は、平成17年から三者協働で活動してきたので、北摂地域でレジ袋無料配布中止が実施したことは、大変うれしく思う。

(7) 今後のスケジュールについて

年2回開催、第2回推進会議は平成31年1月開催予定。

(8) その他

本推進会議の議事要旨をHPにて公開することが了承された。